

碩 心

社団法人 日本詩吟学院岳風会 認可
神奈川 碩 心 会 発 行

5年 1月現在	1月現在	5年 1月号	(246号)
返子地区	169名	根 岸	者
葉山地区	239名	編 集	者
大船地区	46名	中 村	者
(合計)	(454)		萃 愛

六十周年大会に向けて第二步の年

会長 根岸 岳萃

新年お目出度うございます。碩心会の皆さんが、御家族共々よい新春を迎えられましたこと、お慶び申し上げます。

昨年は当会創立五十五周年記念大会が、皆さんの絶大なる協力により、大成功裡に終了できました。そして今年には六十周年大会に向けての第一歩の年でもあり、皆さんが充分健康に注意され、21世紀に向けて楽しく、吟道に精進されることを期待して止みません。

本年は景気も後退し、きびしい年の様ですが、このような時にこそ、慰め、励ましてくれる吟道を通じて、この不景気を乗り切る努力こそ必要ではないでしょうか。

本年も皆さんが健康で、吟道に精進されることを祈念し、碩心会に対して、益々の御協力をお願いいたしまして年頭のご挨拶といたします。



今年も力を合せて吟道発展に協力を

副会長 加藤 岳相

明けましてお目出度うございます。希望に満ちた新年を、会員の皆様と共に迎えられたことの幸福を、心からお慶び申し上げます。

今年も例年のように、各種の行事が予定されております。私も皆さんも、日本詩吟学院岳風会の組織の中の一人として、重要な役割を担っております。一人ではできないことも、多勢の力を併せれば大事業も成し遂げられます。それが組織の偉大さであります。この事を皆様が念頭におき、日本古来の文化である吟道の発展の為に、率先して参加、協力していただくことをお願い申し上げます。

バブルがはじけ、目まぐるしく変貌する世相に対し、私達は吟道で培った真摯な精神を以って、今年もまた会員相互の和をモットーに、健康に注意して、益々吟道に精進し、21世紀に向けて、碩心会の発展のために活躍をお願い致しまして、新年のご挨拶と致します。

一詩千吟の重みをかみしめて

副会長 千葉岳関

新年おめでとうございます。平成も五年となり、何はともあれ、健康で新年を迎えられましたこと誠に御同慶にたえません。昨年は国の内外共に大変な年でした。吟界においても、総本部、県本部とも体制も変り、諸指導についても、色々と前進方向へとふみ出されております。

当会としても、従来以上に、会長を中心とした強い和の輪を拡大し、吟道精神を基調として、大きく発展するよう念願しているものです。

個人的抱負としては、一詩千吟の重みを、もう一度原点に立ち戻ってかみしめ、詩意表現を重点とした、風格のある吟になりたいものと堅く心に期している次第です。

「吟声朗々 心塵を払う」の境地になれるのはいつのことか、先は長いなと、しみじみ思うものです。

皆様を支えられて頑張りますのでよろしく

相談役 三井岳瓏

明けましてお目出度うございます。

思えば昭和三十二年、齢五十才の時、あの乾き切った世相の中、何かの温を求めて頑心会に入り、松井、根岸両先生の御指導の下に吟道に入り三十六年。今年が三十七年目になります。色々な事がありました。中でも、松井先生の韻読にとりつかれ、新体詩の朗詠に魅せられ、まだ無理だったと思いましたが、桜山A、大船B、松和、沼間、山ノ根、逗子Bの皆さんを稽古台に勉強し、やっとなものになったかなあというところです。折に触れては口ずさんでいます。声も十年前前が頂点で、その当時のテープを聞き、自ら慰めているこの頃です。

終りに私事になり恐縮ですが、八十才を過ぎてから体力の衰えを感じ、不本意乍ら、あちこちに不義理をして申し訳なく思います。

長生の秘訣は「風邪ひくな、転ぶな、不義理をしても無理するな」だそうです。及ばず乍ら、皆様を支えられて頑張りますので、よろしく御声援のほどお願いします。

賀正・今年もがんばりましょう

指導者一同より

根岸岳萃 加藤岳相 三井岳瓏
沼田岳雷 小峰岳海 井沢岳潮
加藤岳洵 中村岳郵 竹石岳泓
千葉岳関 中村岳愛 森田曉岳
岩崎恵岳 鈴木孝岳 守谷崇岳
山口夕岳 松野宝岳 杉山雪岳
秋元梁岳 鈴木萃岳 佐藤湧岳
矢嶋悦岳 黒崎李岳 村田澗岳
石渡桂岳 沼田義岳 清水耀岳
伊藤峰岳 白井寿岳 白井麗岳
上村象岳 渡辺誠岳 一柳道岳
佐久間爽岳 木村松岳 寺脇宇岳
立沢御岳 小形雄岳 宇都宮徳岳
千葉美岳 松井正風 水上昌風
西川幸風 (名簿順)

平成五年・主な行事予定

(総本部関係)

- 3・28(日)第103回全国大会…東京ベイNKKホール
- 7・1(木)岳風忌…諏訪地蔵寺
- 7・11(日)第19回選抜者吟道大会…九段会館

- 7・24(土) 第39回夏期吟道講座…九段会館
- 7・25(日) “ …千代田区公会堂

(県本部関係)

- 1・31(日)初吟・初理事会…横須賀労働センター
 - 2・7(日)高段者審査会(皆伝)…平塚農業会館
 - 2・21(日)“(九段・十段・正師範)…”
 - 3・7(日)選抜神奈川予選会…平塚農業会館
 - 3・28(日)第103回全国大会…東京ベイNKホール
 - 4・25(日)選抜関東予選会…神田パンセホール
 - 5・9(日)県本部定時総会…京浜地区担当
 - 5・16(日)横一地区吟道大会…防大講堂
 - 5・30(日)青少年神奈川大会…平塚農業会館
 - 6・13(日)横二地区吟道大会…鎌倉中央公民館分館
 - 7・18(日)湘南地区 “ …大和中央文化会館
 - 8・8(日)指導者吟法講座…防大講堂
 - 9・5(日)京浜地区吟道大会…
 - 10・17(日)県本部大会(予定)…
 - 11・14(日)高段者吟道講座…
 - 11・21(日) “ …
 - 11・27(土)納吟・理事会…横二地区担当
- (碩心会関係)
- 1・10(日)初吟会…京急ビーチセンター
 - 1・19(火)選抜碩心予選会…19時より六代御前社務所
 - 3・14(日)春期審査会…逗子図書館ホール

選抜者大会

出吟希望(特に漢詩)の方にひとこと

松和 武井 桃風

岳風会本部で催される選抜者大会へ出吟希望の方は、我こそはと自身を以て予選会に出ていられると思いますが、会員五百名に近い、県下でも有数な碩心会なのに、合格者が少ないのは何故かと、反省、研究してみました。

私見かも知れませんが、ある年の本部配布の課題詩の注意書に「吟符を正しく、更に詩の心を現す吟を」とあったと思います。これを使う時、一般には声量のある吟が好まれるのは通例ですが、吟符に忠実な、味ある吟に關しては關係がないのではないのかと感じられるのです。中には合吟の時に用いられる揺り上げ下げで平然と吟じられる方もあったように感じました。要するに教本に付けた吟符を、忠実に、一句一句丁寧に吟ずる考え方が少ないのではないかと思われるのです。

吟符は一樣でなく、方向、幅、上げ、下げ、(高低)が詩の心に相応しいように符付けしてあるので、少なくとも、選抜予選に出吟希望の方には、よく研究されて、味の吟…即ち詩

の心も表現できれば、審査員の心を打つものがあると考えます。課題詩のどの点が聞かせどころか工夫されることが肝要かと考えます。が如何でしょうか。

参考までに、或る会の方は、三回全国大会に出吟され、声量もさることながら、教本の吟符を一句一句、手でなぞって練習されていた事を拝見して、これだなと感じました。

観_ル下北半島佛浦奇景

宇都宮徳岳作

海上舟行佛浦濱 奇巖怪石造形頻

如來貌與觀音態 秘境幽玄隔世塵

一部詩文の修正がありましたので再掲載いたしました。

教務副部長任命

碩心会教務部副部長に、平成四年十二月付で佐藤湧岳さんが任命されました。

和歌

(万葉集)

万葉集は仁徳天皇元年(313年)から、弓削道鏡が排斥された直後の天皇である奈良朝の淳仁天皇の天平宝字三年(759年)に至る四四六年間における歌、四、四九六首を集めたものである。上は天皇から、下は防人遊女の庶民に至るまで、あらゆる階級の人達の歌を集めている。万葉集は我国最古の歌集であるばかりでなく、古事記と並んで我国上代の民族生活を物語る代表的な文献である。

普通私達が和歌というと、三十一文字の短歌の事と思うが、万葉集には長歌というものが、二六二首ある。これは、五七五七の言葉が長く続いてゆくものである。次の歌はその一例で終りに反歌(かえしうた)がある。これは長歌の意味を短く取まとめたもので、一首あることもあり、三、四首ある事もある。これが短歌である。無論反歌でない、単一に独立している短歌もある。

不盡山を見て 山部 赤人

天地の分れし時ゆ、神さびて高く貴き、
駿河なる富士の高嶺を、天の原振さけ見

れば、渡る日の影も隠ろひ、照る月の光も見えず、白雲もい行き憚り、時じくぞ雪は降りける、語り継ぎ言ひ継ぎ行かむ
不盡の高嶺は

反歌

田兒の浦ゆうち出て見れば真白くぞ

不盡の高嶺に雪はふりける

万葉集は中納言大伴家持(785没)が編集したといわれている。彼は武門の嫡流を継いだが、藤原氏の勢力に圧例されてしまい、国都も奈良から平安に移った。同時に藤原氏の政権は確立して不動、文化は宮廷の貴族のみを中心として、著しく発達した。

(古今集)

万葉集が奈良朝を代表する歌集であるとするならば、平安朝を代表する歌集は古今集である。古今集は醍醐天皇延喜五年(905年)勅を奉じて紀貫之が主として編集したものである。歌の総数は一、一五〇首でありそのうち長歌は五首となり、以後長歌はすたれている。

山寺にまうでたりけるによめる

紀貫之

やどりして春の山辺にねたる夜は

夢のうちにも花ぞ散りける

明治維新となり、封建制度の土農工商の差別は打破され、文明開化の世となったので、和歌もこれまでの貴族的なもの、知識階級なものを脱皮して、教育の普及と共に、一般民衆に解放され今日に及んでいる。

歌が古今集以後貴族的なものである間は、対象を花鳥風月や恋愛に求め、これを風流となしたのであるが、明治以後一般民衆のものとなってからは、生活の苦惱が歌によってそのはげ口を見出してゆくというような新しい運動も始まってきた。この生活派の世界に金星の如く輝いたのが、不幸なる青年詩人石川啄木である。

宮中のお歌会も貴族だけの技競べであったが、明治となり、宮内省官制をもってお歌所が開設されると面目が一新した。新年初頭の御歌会には、天皇、皇后、皇族の歌が披露されると共に、国民一般の者の歌が披露される事となった。これは世界に類のない、日本民族の詩的意識のなごやかな香りである。

(ささきもとかつ「人生と詩」より抜萃)

(入会)

662 安室明美 横浜市磯子区中浜町十ノ一

(一色A) 電〇四五七七八一〇七五八